

ビフォー
アフター

1年生導入期 (4月から夏休み前まで)
学習計画・記録表

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、1年生の導入期に高校生としてふさわしい家庭学習の習慣を身につけるための「学習計画・記録表」について検討する。

検討会メンバー



富山県・私立
片山学園中学校・高校
森内梨絵
もりうち・りえ

教職歴7年。同校に赴任して8年目。進路指導部。国語科。「教育とは、生徒に未来の可能性を見つけ、育むこと」



埼玉原立
春日部高校
岡本眞一郎
おかもと・しんいちろう

教職歴33年。同校に赴任して2年目。進路指導部。英語科。「教師は生徒につくられる」「失敗は素晴らしいことの始まりかもしれない」



長野県
屋代高校・附属中学校
宇都宮 仁
うつのみや・じん

教職歴25年。同校に赴任して5年目。キャリア教育係主任。国語科。「生徒の『直観』と『情熱』を育てていきたい」

検討

現実的なモデルを提示しながら、
高校生への意識を定着させたい



森内 中高一貫校の本
校では、高校入試を経
験しないため、高校1

年生の段階で家庭学習の習慣が身につけていない生徒が少なくありません。個々の生徒の家庭学習の状況を把握し、早期に学習習慣をつけさせるために、ゴールデンウィーク（以下、GW）に向けて学習計画を立てさせています。ただ、計画表を活用し、自分の学習スタイルを見直しているのは、既に学習習慣が身につけている生徒が中心で、仕方なく計画を書いているだけという生徒もいます。計画表を生徒の学習習慣の確立

につなげるもの、進んで書きたくなるものにしたいです。



宇都宮 本校も中高一
貫校ですので、高校入
試を経験していない生

徒に学習習慣が定着していかないことがあるという課題は理解できません。高校生になると、勉強や部活動、行事など、多くの活動をこなさなければならぬので、1日をどんなふうに通かせばよいのかを自分で理解し、遂行することが必要です。高校生にふさわしい生活スタイルを模索しなければいけないということに気づかせることが大切ですね。



岡本 私たち教師は、
「平日の学習時間の目
安は、自分の学年+2時

間」などと言いますが、部活動に参加する生徒にとって、その目安は現実的ではないかもしれません。「英語は予習中心で1日30分」「数学は復習中心で週末にまとめて2時間」「勉強時間ゼロの日はつくりたくない」など、生徒の参考になるような現実的なモデルプランを示したいですね。
宇都宮 入学当初から計画通りに家庭学習に取り組むのは難しいことです。本校では、高校生活に慣れてきた6月に個人面談を行い、平日と休日の学習計画表と1週間の学習記録を照らし合わせ、できたこと、努力していることを評価し、励ましています。夏くらいまでに、それぞれの

富山県・私立片山学園中学校・高校 森内梨絵先生 1年生導入期「学習計画・記録表」

片山学園高等学校1学年 GW学習計画表

記入例	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
4:00				
5:00				
6:00				
7:00				
8:00				
9:00				
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00				
17:00				
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				
22:00				
23:00				
0:00				
TOTAL学習時間				
英語				
数学				
国語				
理科				
地歴				
建設的反省				

記入例には、生徒に「高校生としてこういった生活を送ってほしい」という一例を提示する。それを参考に、上部には、1日ごとの学習の結果を記録していく。

教科ごとに、勉強する予定を生徒に記述させる。ここに書かれる内容は、各教科から出された課題が中心になっている。

1日を過ごしての反省を記述させる。GW明けに各担任が「学習計画表」を回収し、学習状況をチェックするが、生徒にフィードバックするかどうかは各担任の判断に任されている。

ビフォー

ねらいと機能

導入期時点で早期に
学習習慣を身につけさせる

片山学園中学校・高校では、高校1年生に、左の「学習計画表」に学習計画を立てさせている。その記録から教師が生徒の日常を把握し、生徒自身も学習習慣がついているかどうかをチェックできるようにしている。GWに活用することで、教師の手から離れた状態で、どれくらい学習ができていたのかを客観的に見る。ただ、「計画→実行→振り返り→計画の修正」というサイクルが実現できているのは、既に学習のリズムが確立されている生徒が中心だということ。

課題と解決策

- 1 多忙な高校生活の中で、どのように家庭学習を進めていくのか、できる限り生徒の実情に合ったモデルを提示する。
- 2 面談で、できたこと、努力していることを評価し、高校生への変化を後押しする。
- 3 学習時間は1日単位だけでなく、1週間単位で捉え、週末を活用させる。

生徒に合った学習計画が立てられるように指導しています。

岡本 高校の学習の量とスピードについていける生徒を見ると、平日は無理をせず、時間に余裕のある週末に集中して学習していることが多いと感じます。目標とする学習時間を1週間単位で達成できればよいと考えた方が、計画倒れになりにくいようです。教師の理想ではなく、生徒の実情に沿った指導をしたいと思います。

森内 本校の場合、部活動に参加しているかどうか、あるいは通学生なのか寮生なのかで生活リズムは大きく違いますから、同じような状況の先輩の例を見せるなど、一人ひとりに合った現実的なモデルプランを提示したいと思います。

学校プロフィール

富山県・私立片山学園中学・高校
◎全日制/普通科/共学/1学年約100人

◎2015年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東北大、東京大、東京工業大、名古屋大、大阪大などに43人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ206人が合格。

埼玉県立春日部高校

◎全日制・定時制/普通科/男子/1学年約360人

◎2015年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、北海道大、東北大、東京大、東京工業大などに79人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ411人が合格。

長野県屋代高校・附属中学校

◎全日制/普通科・理数科/共学/1学年約270人

◎2015年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、北海道大、東北大、信州大などに125人が合格。私立大は、上智大、明治大、早稲田大などに延べ252人が合格。

検討会で明らかになった課題を踏まえ「学習計画・記録表」を改良! 次ページで紹介します。

*プロフィールは2016年3月時点のものです

アフター

学習計画を立て、実行するにあたり、この時期には、どんなことが大切になるのか、1週間の目標として教師があらかじめ記入して配布する。また、学習モデルについては、「部活動の参加」「通学時間」などを踏まえて3、4パターン作成し、各生徒に合ったものを提示する。

学習計画・記録表

1週間の目標

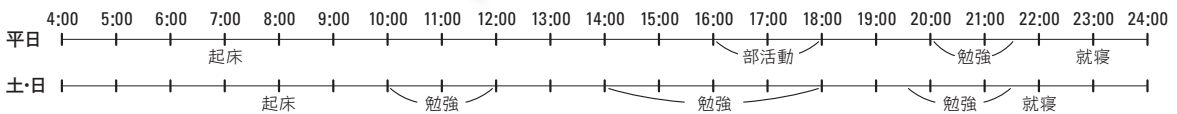
年 組 名 前

●1日の家庭学習の目安
1.5～3時間

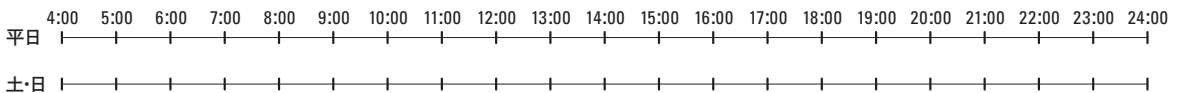
●1週間の家庭学習の目安
18時間

※勉強時間ゼロの日をつくらないようにしよう

■学習モデル（運動部の生徒の場合）



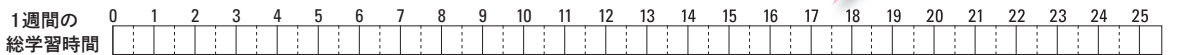
■学習計画



■1週間の記録

日	起床	就寝	家庭学習に取り組んだ時間帯（塗り潰す）	今日できたこと・良かったこと	1日の評価（○△×）
/	:	:	4:00 5:00 6:00 7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00 23:00 24:00		
/	:	:	4:00 5:00 6:00 7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00		
/	:	:	4:00 5:00 6:00 7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00		
/	:	:	4:00 5:00 6:00 7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00		

家庭学習に取り組んだ時間帯を1日ごとに塗り潰し、さらに家庭学習時間の合計を1週間単位で計っていく。また、起床時間、就寝時間を書かせて、生活リズムのチェックも行っていく。



1週間を振り返って

教師からのコメント

教師が記入

1週間を振り返って、できたこと・良かったことを確認する。後日、この内容を基に面談を行ったり、回収して教師がコメントを書き加えたりする。計画と記録を第三者が評価することで、学習へのモチベーションを高める。

また、生徒が1週間単位で学習時間を管理するためには、各教科からどんな課題が出て、それぞれ1週間で取り組むのにどれくらい時間がかかりそうかを月曜日の段階で見通しておく必要がある。それについて、森内先生から「進路指導部や学年で、各教科からどれだけ課題が出ているかを集約した上で、学習計画・記録表の裏面に一覧化することも考えた」といった案も出された。

なお、生徒の成長段階によって、家庭学習における課題は、「教科パランス」や「学習方法」などに変わっていくため、それに合わせて、学習計画・記録表の様式も変えていくことになる。

学習計画や記録が生徒の負担にならないように、記入する項目を精選した。この時期は、何を勉強したかよりも、毎日机に向かったかどうか、規則正しい生活リズムをつくりながら、1週間単位で家庭学習の時間を確保できるようにしているかが重要であると考え、起床・就寝時間や1週間の総学習時間の記入欄を新たに設けた。

改訂後のねらいと機能
1日を肯定的に振り返り、1週間単位で学習時間を管理



ビフォー アフター

活用

「できた」という達成感を持たせ、
学習への姿勢を前向きにする

岡本 まず、この時期の生徒に合った現実的な目標を明確に提示してみましょう。学校ごとに異なるので、1年生の夏くらいまでの目標は、「自宅ですぐに毎日机に向かう習慣を身につけよう」「勉強時間ゼロの日はつくりたくない」といったことではないでしょうか。



宇都宮 この時期は、目標を明示してあげることで、学習習慣を確立する上での今一番大切なことを生徒が理解できると思います。「せめてこれだけは」と頑張ることで、時間をやりくりするコツも分かってくるでしょう。最初は、家庭学習の時間の確保、次に学習の教科バランス、そして効果的な勉強方法など、徐々に目標をレベルアップさせていきたいと思います。

岡本 1週間単位で学習の質と量を振り返らせるので、1日の振り返りは簡単なものでよいのではないで

しょうか。また、生徒が書きたくな
る学習計画・記録表にするために、
「学習時間メーター」を設けて、学
習した時間を塗り潰させてはどうで
しょう。学習時間が積み上がる様子
がパッと見て分かるので、学習への
意識が前向きになると思います。



森内 「今日はこれだけ
しかできなかった」で
はなく、「今日はこれだ
けできた」と前向きに振り返らせたいです。今日できたこと、良かったこと、を書く欄があれば、さらにやる気が増すかもしれません。

宇都宮 他者からの励ましや、アドバイスのあれば、人はさらにやる気になるものです。担任が肯定的なフィードバックを書き込む欄を設けることも、「生徒が書きたくなくなる学習計画・記録表」にするには欠かさない視点だと思えます。

森内 例えば、2年生の先輩



が確認し、コメントするのも一案です。身近な存在である先輩の声には耳を傾けやすいでしょうし、2年生にとっては、自分の学習習慣を見直す機会にもなります。

宇都宮 本校では、4月の学習オリエンテーションで学習計画の立て方も教えますが、1回の説明だけではそれを生徒に身につけさせることは難しいです。そのため、10月頃には学習合宿等を行います。節目節目で繰り返し指導していくことが大切ですね。

岡本 各部活動の部長を呼んで、顧問と一緒に学習計画の立て方や週末の過ごし方などを指導し、それらを

「部員にも共有しなさい」と言うこともあります。学習習慣の確立は学力を伸ばすための大前提ですが、生徒にとっては決して簡単なことではありません。個人面談を含めた様々な場面での声かけやフィードバックを通して、着実に高校生へと育てたいですね。きっと、大学生や社会人になった時に必要な自己管理能力の土台づくりにもつながるはずです。

森内 「生徒のために」をしつかりと考えていくことで、いろいろな改善点が見つかるものですね。今回の検討会で得た気づきを学校に持ち帰って、さらに検討してみます。

活用の流れ

1 GWに入る前に、
学習計画を立てさせる。その際、
先輩の1日の学習モデルプランを例示する。

2 GWに学習計画を実行。
実際に取り組んだ総学習時間を記録。
計画と実際にできたことを比較し、
学習計画の立て方や1日の過ごし方の
改善ポイントを見極める。

3 GW以降に1、2を踏まえた
学習計画を1週間単位で立案し、実行する。